

指導資料



鹿児島県総合教育センター

地理歴史・公民 第7号

- 高等学校, 特別支援学校対象 -

平成20年10月発行

小・中学校の社会科学習を踏まえた高校公民科の授業の導入の工夫 - 仏教の分野を通して -

平成20年1月に出された「学習指導要領等の改善について(答申)」には、教育内容に関する主な改善事項として伝統や文化に関する教育の充実が挙げられ、自らの国や郷土の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けること、伝統や文化の理解についても、発達の段階を踏まえ指導すること(波線筆者)の重要性を指摘している。これは、現行の高校公民科現行学習指導要領にある、児童生徒の発達段階を踏まえ、各学校段階の特色を一層明確にして内容の重点化を図るという改善の基本方針を、伝統や文化という視点からさらに継続していくことであると考える。

実際に高校公民科では、伝統や文化、思想を学ぶ意義を生徒が十分に理解しないまま授業が展開されることが多く、例えば、仏教を学ぶ際、天台宗の開祖は最澄、真言宗は空海というように知識を覚えるだけに止まっていることが多い傾向にある。

そこで本稿では、仏教にかかわる分野を例に小・中学校の社会科、高校日本史の学習内容を踏まえ、仏教の果たした役割や生活への影響について理解を深めながら、公民科の授業の導入について考えていきたい。

1 生徒の学びや経験を生かす導入の工夫

(1) 身近な仏教用語を使った工夫

授業で仏教を扱う時、関心を高めるため生活の場面でよく使われる仏教用語を取り入れたい。資料1では、開祖ガウタマ=シッダールタが悟りを開く契機となった悩みを紹介し、理解を深めさせる。

「四苦八苦」の用語を使った導入事例

教師 物事がうまくいかず、いろいろ困る

ことを四字熟語で何と言いますか。

生徒 四苦八苦です。

教師 皆さんが生きる上でどんな苦しみがありますか。

生徒 病気になることや自分で考えた通りに物事が進まないことなどです。

教師 年をとることも含めて、生きること自体も苦しいものです。四苦は生・老・病・死のことです。もちろんそれを乗り越えていく「生きる力」は必要です。四苦に加えてあと具体的にどんな苦しみがありますか。

生徒 大好きな人と別れてしまうことや自分が会いたくないと思う相手と出会うこと。また検定試験に不合格に

なったことやしななければならないことが多すぎることなどです。

教師 それぞれ^{あいべつりく}愛別離苦、^{おんぞうえく}怨憎会苦、^{くふ}求不得苦、^{とくく}五蘊盛苦ごんじょうくといます。これらをまとめて四苦八苦と言うのです。

資料1 教師と生徒の対話例

このように、一般に使われている仏教用語を例に、日常生活への活用も図りながら、外来文化でもある仏教思想がどのように日本の文化の中に根付いてきているのか考えさせたい。

他に使える仏教用語やことわざの例

有頂天 我慢 自業自得 地獄 精進
自力と他力 彼岸 会うは別れの始め
^{わざわい}禍 転じて福となす 果報は寝て待て

(2) 小・中学校や高校日本史の学習内容を踏まえた工夫

ア 小・中学校の学習内容の活用

小学校教科用図書（第6学年）には、渡来人によってさまざまな文物が大陸から伝えられたことが記されている。

・・・のぼりがまを日本に伝えたのは、中国大陸や朝鮮半島からわたってきた人々でした。渡来人は、養蚕やはた織りをはじめ、鉄で武具や農具をつくる技術やため池のつくり方などを伝えました。渡来人の中には、大王に仕えて、朝廷の記録や、外国への手紙を書く仕事をする人もいました。こうして、漢字が伝えられました。このほか、儒教や仏教ももたらされました。

資料2 「大和朝廷と渡来人」の記述

資料2では下線部の記述から仏教が公式に百済から伝わる以前から、渡来人

通して外国との交流がなされていたことを国家と国家の結びつきの観点から読み取らせたい。

資料3では下線部を踏まえ、天皇中心の律令国家をつくろうとする動きのなかで国から国へ伝わった仏教が、それまでの氏族の神々を超えて国家統合の役割を果たしていくことになるを説明したい。

6世紀に百済から仏像や経典が伝わりました。自然の神を信仰し、素朴な来世の世界を信じていた人々は、現世利益や来世についての、体系的な教えに驚き、抵抗する人々もいました。

資料3 「仏教」の記述

イ 高校の学習内容を踏まえた資料の活用

「日本史」では、外来文化の導入に積極的に渡来人勢力と結びついた蘇我氏が、守旧勢力の物部氏に勝利したことで、仏教導入が促進されたと学ぶ。これを踏まえ、推古天皇が即位し、聖徳太子や蘇我馬子らが協力して憲法十七条を定め、仏教（三宝）を政治理念として重んじたことを説明したい（資料4）。

一に曰く、和を以て貴しとなし、・・・
二に曰く、篤く三宝を敬へ。
三に曰く、詔を承りては必ず慎め・・・

資料4 憲法十七条の一部（『日本書紀』）

さらに「倫理」では、仏教を含めて外国からきた神を蕃神（あだしくにのこみ）とよび、在来の儀礼を排除せず、より豊かにし新たな要素を付け加える儀礼として受け入れられたと説明しているということを併せて理解させたい。

2 小・中学校や高校日本史の学習内容を踏まえ仏教が民衆へ広まったことを示す工夫

(1) 奈良時代

ア 行基と時代背景のプレテスト

小学校教科用図書は、社会事業を進めて農民の支持を集めた行基について、大仏造立や農民の暮らしとともに詳しく記されている。資料5のプレテストで既習事項を確認しながら、農民と仏教の関係を押さえたい。

行基の活躍と時代背景

・・・大仏づくりには、すぐれた技術者も必要でした。(ア)天皇は(イ)の子孫を指導者にしました。また、僧の(ウ)にも協力を求めました。(ウ)は橋をかけたり、池をつくったりして、農民の暮らしを助けながら仏教の教えを広め、多くの人々にしたわれていました。

問1 (ア)～(ウ)に適する語を書け。

答 (ア)聖武 (イ)渡来人 (ウ)行基

問2 (ア)天皇が僧の(ウ)に協力を求めた理由は何か。

答 農民の暮らしを助けながら仏教の教えを広め、多くの人々にしたわれていたから。

資料5 プレテストの例 (本文 大仏づくり)

イ 鑑真の言葉の現代語訳

さらに、仏教で国家を治めていくという視点から、次の史料を現代語訳することで関心を高めたい。戒師の派遣を求められたとき鑑真が弟子に語った言葉である。小学校第6学年で学んだ学習内容を想起させながら、俗化した

仏教の教えではなく、受戒の儀式を厳粛に行うことで、仏教とはかくあるものだと言えなかったということを理解させたい。

これ、法の為なり。

なんぞ身命を惜しまむ。

諸人行かずば、我れ則ち去らむ。

日本に行くのは仏法を伝えるためだ。

どうして命を惜しむことがあろう。

誰も行かないのならわたしが行く。

資料6 『東征伝絵巻』の一部と現代語訳(筆者)

(2) 平安時代から鎌倉時代へ

ア 法然と浄土の教えのプレテスト

中学校歴史分野では、平安時代は天台宗と真言宗が圧倒的な勢力を持つ一方で、世の中が乱れると阿弥陀仏にすがって、極楽浄土に生まれ変わることを願う浄土信仰が流行したことを学ぶ。臨終の際、「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば、阿弥陀仏が極楽浄土に導くと説く浄土信仰は、人々の心の拠り所となる。空也が市中で念仏を勧めたことで、貴族ばかりではなく民衆にも仏教の教えが広まっていることを併せて考えさせ、鎌倉仏教につなぐ。

鎌倉仏教の教え

法然は(ア)を開き、(イ)の間に広まっていた浄土信仰の教えを徹底することを主張し、一心に「南無阿陀仏」と(ウ)を唱えることで、(エ)にだれでも生まれ変われると説いた。

問1 (ア)～(エ)に適する語を書け。

答 (ア)浄土宗 (イ)貴族

(ウ)念仏 (エ)極楽浄土

問2 仏教が急速に普及した理由と思われる部分に下線を引け。

資料7 プレテストの例(本文 新しい仏教の教え)

資料7では仏教を普及させた手法についても下線を引かせて考えさせたい。

イ 親鸞の悪人正機説に関する対話例

資料8は法然の弟子の親鸞が師の教えを一步進めた、悪人正機の教えを学ぶ際の対話例である。活用し、更に理解を深めたい。

「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」の文章を使った導入事例

教師 善人と悪人、どちらがより修行しなければ往生できないと考えますか。

生徒 悪人だと思いますが、ここでは反対の意味であると思います。「善人が極楽浄土に行けるのに、悪人が行けないはずはない」という意味です。

教師 なぜ、このような言い方になるのでしょうか。

生徒 親鸞は、人間はいつも善い行いをなし続けられないと思ったのでは。

教師 そうかも知れないね。ただ悪人と言っても、道徳的に悪いことをした人ではなく、煩惱深い人という意味なのです。どんなに煩惱を振り払おうとしても、なし得ないと知り、阿弥陀仏に救いを求めることにしたのだろうと思われるね。

資料8 教師と生徒の対話例

3 仏教が根付いていたことを示す工夫

平安末期、出家し諸国を遍歴した西行でさえも、死ぬ時は釈迦が入滅した旧暦二月

十五日の満月のころ、桜の花の下で死んでいきたい願う。次の句を示すことですでに仏教が民衆の精神のなかに広がっていることを理解させたい。

願はくは花のしたにて春死なむ

そのきさらぎの望月のころ

資料9 『山家集』から

叔和しゆくわせいどう西堂語りて云く。今月五日越前府中に行く。それ以前越前の合力ごうりょくせい勢賀州に赴く。しかりといえども一揆衆二十万人、富樫とがし城を取り回く。

故を以って、同九日城を攻め落さる。皆生害して、富樫一家の者一人これを取り立つ。

資料10 加賀の一向一揆の資料(『薩涼軒日録』)

この資料から、蓮如の布教による浄土真宗本願寺派の勢力拡大を背景に、加賀の門徒と国人が手を結び、守護の富樫政親を倒したことで、仏教で結びついた民衆の力が強大になったことをうかがうことができる。

本稿では、公民科で、生徒の理解が不十分になりがちな学習内容について、仏教の分野を例に導入の工夫について述べた。今回述べた具体例を参考にして、授業の工夫改善に取り組んでほしい。

【参考文献】

『小学生の社会 日本のあゆみ』日本文教出版

『社会科 中学校の歴史 初訂版』帝国書院

『新編新しい社会 歴史』東京書籍

『改訂版 詳説 日本史B』山川出版社

『改訂版 高等学校 倫理』数研出版

大角修『すぐわかる日本の仏教』東京美術 平成 17 年

(教科教育研修課)